

## 授業科目 解剖生理学 I

【担当教員名】 川中 健太郎		対象学年	1	対象学科	健栄
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎			
【概要・一般目標：GI0】 これからの栄養士は、摂取した食物がどのように体内で代謝されて利用されるかについてよく理解し、その知見を栄養指導等に生かしていく能力が必要とされる。解剖生理学 I および II ではこれらの能力の土台となる“身体の構造と機能についての基本的な知識”を学習する。解剖生理学 I では、特に、栄養生理的な面を強調して、身体の構造と働きについて学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1) “細胞”とその集合体である“組織”について理解する。栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。 2) 栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。 3) 代謝された栄養素の排泄の仕組みを理解して説明できるようになる。 4) 生活習慣病の成り立ちを生理学的に説明できるようになる。 5) 身体が恒常性を保つ仕組みを理解して説明できるようになる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	ガイダンス				講義
2	人体は何からできているか				講義
3	細胞の種類と基本構造。人体の各組織はどのような細胞から成り立っているか				講義
4	細胞における遺伝子発現とたんぱく合成のしくみ				講義
5	口腔内および胃における栄養素の消化				講義
6	小腸における栄養素の消化				講義
7	小腸における栄養素の吸収				講義
8	肝臓における栄養素の貯蔵				講義
9	心臓の構造				講義
10	心拍動のしくみ、心拍数の調節				講義
11	血管の構造と働き				講義
12	血圧調節				講義
13	骨の構造				講義
14	骨形成と吸収のしくみ				講義
15	まとめ				講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		人体の構造と機能 ナーシング・グラフィカ 1 解剖生理学		メディカ出版	4,800 円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 期末試験と出席状況		【履修上の留意点】 高校時代に“化学”“生物”を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は補習によって“化学”や“生物”を学習して学力を補強しながら授業に臨むこと。			